

第54回秋田実技セミナー開催報告

開催日：平成29年9月23日（土）

時間：8時50分～14時10分

開催場所：日本赤十字秋田看護大学

主催：「最期まで口から食べる県、秋田！」推進協議会

共催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：株式会社大塚製薬工場

< 敬称略 >

【開催目的】

要介護高齢者に口から摂食してもらう取り組みを多職種が連携して進めるよう、国の指針で方向性が示されている一方、地方では摂食嚥下に関する関心がいまだ希薄な状況となっている。そこで、共通の認識と知識、技術を持って食事介助や口腔ケアに取り組む人材育成を図るとともに、医療・介護・福祉の関係者だけでなく一般の方々にも「口から食べる」ことの大切さを知ってもらい、「最期まで口から食べる幸せを守る」社会を実現することを目的に開催する。セミナーでは安全で安楽な姿勢調整、機能的器質的口腔ケア、早期経口摂取開始に向けたスクリーニング評価、安全・効率的で自立を目指した食事介助技術のスキルアップが図れるよう、講義・実技演習を行います。

【講師・アドバイザー一覧】

< 敬称略 >

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
小野寺 裕子	社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
高橋 瑞保	山形県立中央病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
前田 有紀子	JA 秋田厚生連 雄勝中央病院	看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者

熊谷 良弘	社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵風荘	看護師 KTSM 実技認定者
小菅 一弘	ジュネスデンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
小山 竜也	社会福祉法人なかつうみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	介護福祉士 KTSM 実技認定者
菅 康德	医療法人せいとく会 菅医院	医師 KTSM 実技認定者
谷合 久憲	JA 秋田厚生連 由利組合総合病院	医師 KTSM 実技認定者
小松 嘉彦	仙北市介護老人保健施設にしき園	理学療法士

[アンケート集計結果](#) (参加者 54 名、アンケート回答者 53 名)

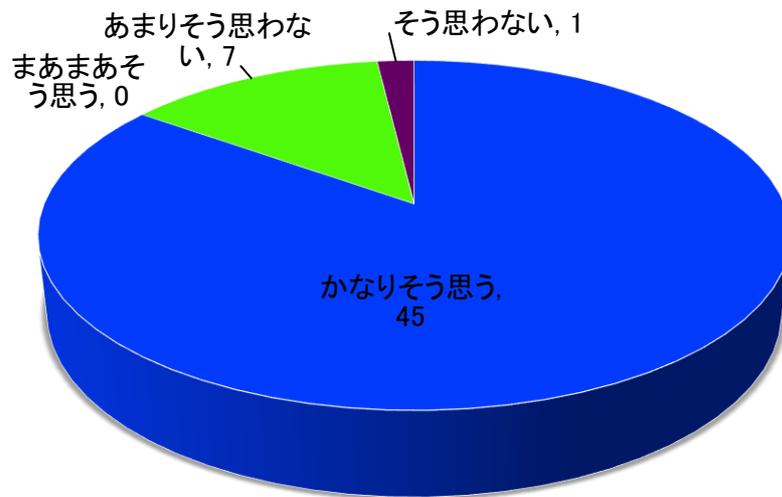
職種

53

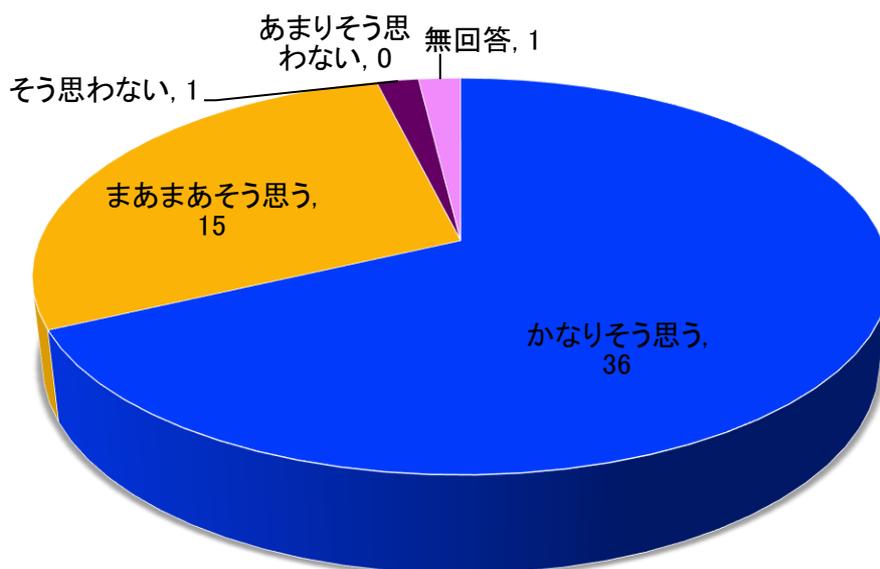
回答	票数	%
歯科医師	3	6
看護師	14	26
栄養士・管理栄養士	10	19
歯科衛生士	5	9
介護職	18	34
介護支援専門員	1	2
福祉施設管理者	1	2
事務職	1	2

今回のセミナーはご自身のスキルアップにつながりましたか？

53



- * 普段実践できていないことがたくさんあることに気づいた。患者役をしてみて、まちがった方法で介助されることはとても苦痛だと実感した。
- * ポジショニングのポイントが分かった。
- * 車椅子のご利用者様が食事を摂取される時の姿勢、食事を介助する時の介助する位置が実際の仕事に役立つと思いました。口から食べてもらう事が大切だという、自分の中での意識が高まったと思います。
- * 初めて実技演習に参加したため。特に課題と思っている口腔ケアにつき、道具に触れて手順を経験できて良かった。
- * スプーンのかいかた、シーティングしだいで食べやすくなること、肘をつくことで食べられるようになることを学びました
- * 高次機能障害、認知症の患者さんの病態を把握して、包括的にケアに取り入れられるようにという視点を学んだ。アセスメントスコアシートの存在も知り活かそうと思った。
- * 食事時にポジショニングを確認し、タオルやクッションや薄手の毛布でその方に合わせたようにセッティングしたいと思った。
- * 食べれないからといって食べさせない。ではなく、介助者が意欲的に行動し行わなければ食べる意欲はどんどん低下してしまうと。改めて実感しました。
- * 初めて利用者の方になって何も言われず口に入れられるのはこわいなと感じました。
- * 臥床時離床時の姿勢を見直そうと思います。
- * 利用者役を体験し自身の介助方法を変えなければと痛感した
- * 知識不足の点もあったし、実際に介助してもらい摂食した際の感覚や気持ちを感じることができた。

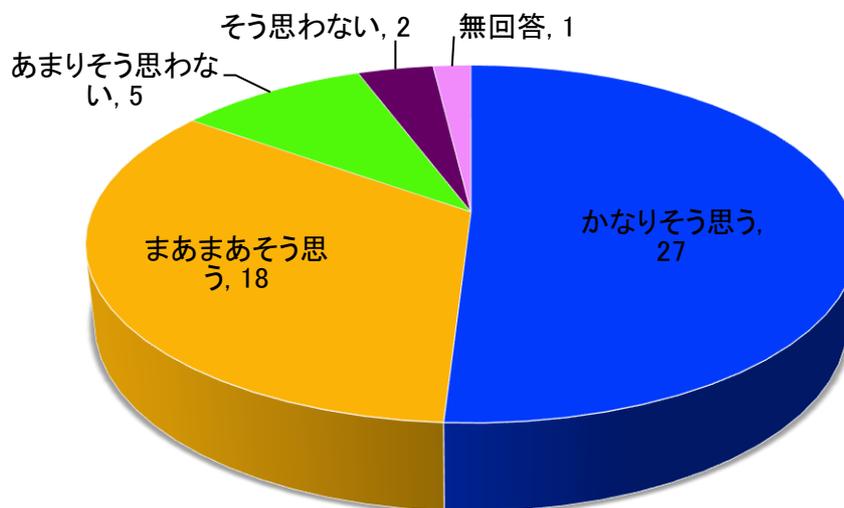


- * 食事中の姿勢が崩れやすい方への対応に活かしたいと思います。
- * ポジショニング（麻痺等のある患者）から介助動作まですべて活用したいです。
- * 現場にほとんど入る事がないので今後入って食事の様子を見ていきたい。
- * さっそく職場に行き活用したい。
- * 食事介助時のポジショニング、シーティング技術、介助のポイントなど
- * まだ、自分で食べる意欲もあり、食べている人なので、手を添えることは少ないが、うまく飲めない時の改善策として姿勢（予防策としても）に気をつけたい。
- * 当施設でも誤嚥性肺炎のリスクが高まると絶飲食を強いられ胃ろう造設への方向性となります。その様な利用者に対し活かしていけたらと思います。
- * ポジショニング、口腔ケアに関して日々のケアに取り入れることができそうです。
- * 姿勢や食事介助でタオル使用し、隙間をなくしたり、肘や頭の固定など安定した状態で食事摂取の向上につながれると思っています
- * 口腔ケア、ポジショニングなど積極的に行うことから活用したいと思う。
- * グループホームから高齢者の食事介助をどうしているのか、みて欲しいと話があり、学んだことを活かしたいと思います（シーティング等）
- * 食事介助の際に活用できることが多くありました。
- * ベッド上でのポジショニング、車椅子のシーティングを活用したい。
- * 現状職場で食事介助を必要とする方が多いので、実践していきたいと思います。
- * 在宅に伺う機会があるので、食事の際の姿勢調整等を特に家族の方へ伝えていきたい点だと思いました。

- * 医療現場よりも身近な在宅・介護で正しい姿勢、要介護者のアセスメント、食事の工夫、コミュニケーションに生かせると思います。
- * 祖母が車イス生活なので帰ったらすぐにやってみようと思います。
- * 食事介助時の姿勢は直ぐに行おうと思いました。介助時のスプーンや口腔ケア等沢山ありました
- * シーティングや視線の誘導など
- * 片麻痺や認知症にて食が進まない方へのアプローチ、Ng チューブ（経鼻経管栄養チューブ）が入っている方への食の進め方などに。

職場や地域で自ら研修を企画してみたいと思いますか？

53



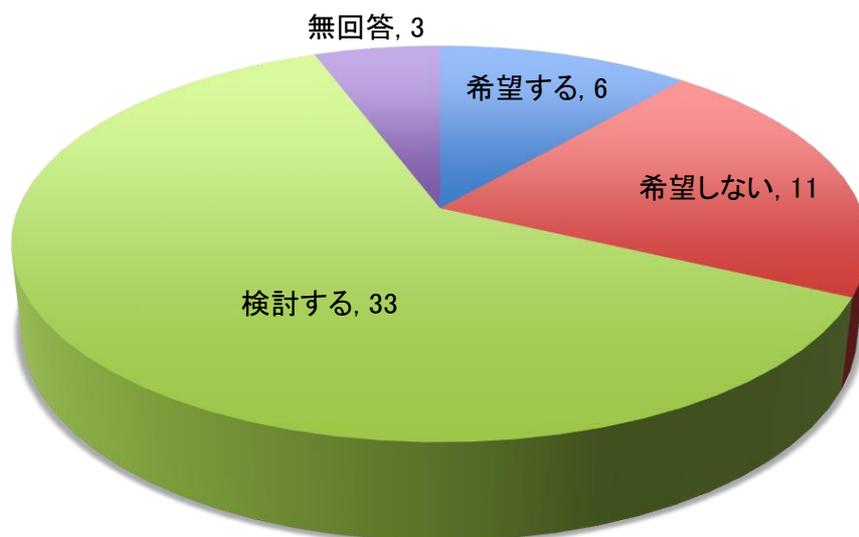
- * ポジショニング、食事介助について
- * 施設で摂食嚥下プロジェクトがあり、その中で実技セミナーの様にやっていけたらと思う
- * 自分は施設で組織横断的に活動する機会があるので、その活動の中でスタッフへ紹介、企画等できたら良いかなと思いました。院内で統一して、ケアするという事は、とても難しいので。
- * 地域の多職種に研修したいです
- * 他職種にも学んだことを広めていけたらいいと思いました。
- * 姿勢など悪い人にタオルなどをもちいて今日教えてもらったように出来れば良いなと思います。
- * 介護予防教室を行なっているので取り入れていきたい
- * 職員勉強会で行ってきたい

今後、セミナーで取り上げてもらいたい内容

- * 認知症状が強い方に対するのアプローチ方法
- * 食形態の内容が適切か質問に答えてほしい。
- * 車イスでのシーティング（色々な方に合わせた）の仕方について、もう少し詳しく知りたい
- * バランスチャートのどの段階にあてはめたら良いか分からない時はどうしたら良いか知りたいです
- * 認知症の方の食事介助をもっと深く学びたいです。
- * 認知機能の低下している方への介助。多職種へ経口摂取の必要性をどのようにすすめていけば良いか、誘導というか介入というか。
- * 認知機能の低下により指示が入らないかたへの介助法、リハビリ法
- * 在宅介護食を行う際の食介助（こんだてや食形態調整、家族への説明、など）の進め方について
- * 右麻痺（片麻痺の）方の食事介助、覚醒しない方へのアプローチ

今後、KTSM 実技認定審査を受けてみたいですか？

53



セミナーの様子

【全体講義】



【ポジショニング、口腔ケア】



【ベッドサイドスクリーニング評価】



【ベッド上食事介助】



【シーティング、車いすセルフケア拡大】





みなさま、ご参加いただきありがとうございました！

上記アンケート内容は一部の方のご意見・ご感想を掲載させて頂いております。

アンケートにご回答いただいたみなさま、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

実技セミナーにご参加・ご尽力いただいたすべてのみなさまに感謝申し上げます。



第54回秋田実技セミナー企画委員